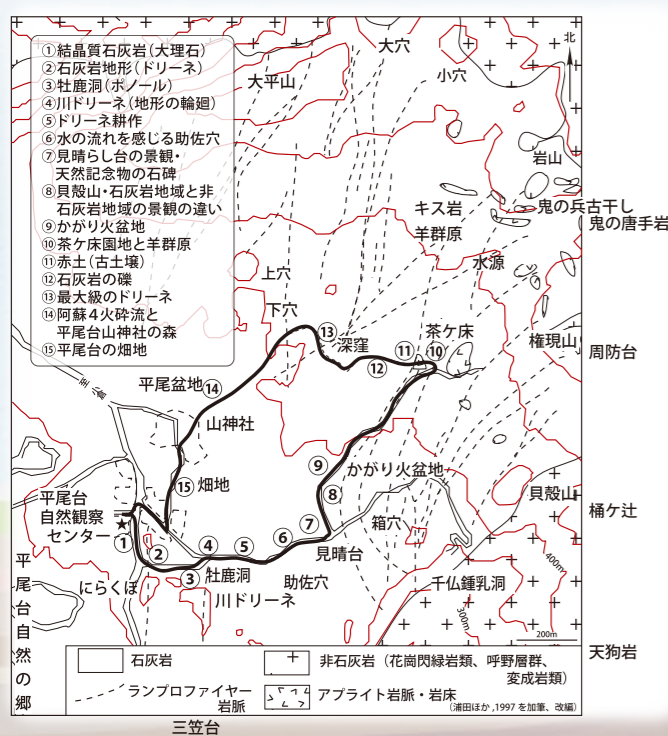


平尾台の主な見どころ

(茶ヶ床・見晴らし台コース:太線) 塔ヶ峰 貴山 四方台



平尾台は「国指定天然記念物」「北九州国定公園」「県立筑豊自然公園」「地質100選」などに指定・認定されています。マナーを守り、平尾台のすばらしい自然環境を楽しく学び、次世代に伝えていきましょう！

- ゴミは持ち帰りましょう
- 生きものを気づかぬようにしましょう(大きな音をたてない、花をつまないなど)
- 道路以外のところを踏みあらしたり、車などを乗り入れないようにしましょう
- 火に気をつけましょう
- 危険な“穴”が隠れている場合があります。観察コースをはずれないようにしましょう
- 危険な生きもの(マムシなど)に注意しましょう



千仏鍾乳洞



牡鹿洞



目白洞

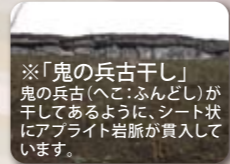
③牡鹿洞(ポノール)

平尾台では、これまで数百とも数えられる洞窟が発見されています。降った雨水は、100年で数ミリメートルというゆっくりとしたスピードで石灰岩を溶かし、洞窟やドリーネが発達するカルスト台地を作りだしています。光のない洞窟内の環境はコウモリなど希少な生物を育み、ナウマンゾウやヤバオオツノジカなど、今の平尾台では見ることのできない珍しい動物の化石が発見される地となっています。昭和10年12月24日、国の天然記念物に指定された「千仏鍾乳洞」や、水の吸い込み穴(ポノール)が発達した、竪穴や斜めの斜洞などからなる縦横複合洞窟の「牡鹿洞」、全長2キロメートルをこす長さを誇り、地下水によって溶かされてきた大きな一枚天井がみごと「目白洞」は、観光洞窟として整備がなされ、一般の人が入洞できるようになっています。またガイドと一緒に洞窟探検(ケイビング)を楽しめる洞窟などもあり、未知の世界を探る洞窟学の聖地として平尾台の名は、世界的に広く知られています。



⑩茶ヶ床園地と羊群原

茶ヶ床園地からは、大平山から羊群原にかけ広がる雄大なカルスト台地の景観を楽しむことができます。南の暖かい海のサンゴ礁に生息していた約3億年前の生き物たちが作りだした平尾台の白い石灰岩は、約1億年前、恐竜時代にマグマの影響をうけました。崩れやすくなった石灰岩は丸みをおび、牧歌的景観をかもし出しています。石碑には、平尾台の北東部が、昭和27年11月22日、国の天然記念物に指定されたことが刻まれています。石灰岩地帯にランプロファイヤー岩脈が入りこんでいるようすや、岩床状にアブライト岩脈が白い石灰岩を貫いているようすなど平尾台の石灰岩が大理石(結晶質石灰岩)となった歴史を感じとることができます。



※「鬼の兵古干し」鬼の兵古(へこ:ふんどし)が干してあるように、シート状にアブライト岩脈が貫入しています。



「約3億年前のサンゴ礁」ジオラマ(いのちのたび博物館展示)平尾台の石灰岩をつくった“サンゴ礁”の生きものたちが復元されています。

「平尾台で、安全に、楽しく活動するために」

◆平尾台自然観察センター

平尾台自然観察センター(平成12年(2000年)開館)は、北九州国定公園である平尾台の自然環境の保全や自然保護に関する理解を深めるための、人と自然のふれあいを推し進めています。平尾台の歴史を解説するパネル展示のほか、ジオラマを活用したカルスト台地の観察ルート解説や、洞窟ジオラマ、台上の生物と自然を解説するコーナーなどもあり、平尾台観察に必要なさまざまな情報を得ることができます。平尾台は、法律で自然環境が保護されています。またカルスト台地には、ドリーネが発達し、竪穴など危険な場所が点在します。平尾台の活動を、安全に楽しく行うために、自然観察センターに立ち寄り、十分な情報収集をしましょう。



平尾台自然観察センター

◆平尾台自然の郷

平尾台の「自然環境の積極的保全」と「地域社会への貢献」を目指す自然参加型レクリエーション施設(観光拠点施設)として平成5年(2003年)に「平尾台自然の郷」はオープンしました。セメントの原料などになる「石灰石」を採掘している日本を代表する鉱山地域「産業ゾーン」と学術的重要性からその景観と自然環境が守られている「保護ゾーン」の間の「緩衝ゾーン(バッファゾーン)」に位置し、住民(市民)・行政・企業ができることを分担して地域を良くする「グラウンドワーク」の試みを実施しています。平尾台の活動をサポートするガイドスタッフもおり、活動計画をたてる上での相談にものってくれます。



平尾台自然の郷